



# 岐剣連 広報

第 53 号

令和5年6月1日



岐阜県春季少年剣道錬成大会の一コマ

岐阜県剣道連盟

# 目 次

会長あいさつ .....	1
全国大会の成績 .....	2
栃木国体 .....	2
東海ブロック大会 .....	2
全日本都道府県対抗剣道優勝大会 .....	3
全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会 .....	3
全日本選手権に出場して .....	4
全日本女子選手権に出場して .....	5
東海四県大会 .....	5
全国青年大会に出場して .....	7
岐阜県剣道選手権大会 .....	8
東西対抗・六地区大会 .....	8
県民スポーツ大会 .....	9
生涯剣道 .....	10
祝 昇段 .....	11
少年剣道 .....	12
中学剣道の記録 .....	14
高校剣道の記録 .....	16
警察剣道 .....	20
学校剣道連盟の活動 .....	20
道場連盟の活動 .....	21
居合道の活動 .....	22
事務局だより .....	24
令和5年度事業計画	

ごあいさつ



岐阜県剣道連盟

会長 堤 俊彦

会員の皆様には、日頃より本連盟発展のために御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスもようやく減少し、コロナ禍前の平時に戻りつつあります。しかし、剣道におけるマスクの着用については、個人の判断に委ねることとなりましたが、口の部分を覆うシールド又は面マスクは着用し、日頃の稽古・大会等に臨んでいただきたいと思えます。

昨年まで、各施設の使用制限等もあり、運営面や参加人数等に影響がりましたが、今年は、より多くの選手の皆さんに参加していただき、大会等盛り上げていただけたらと思えます。

また、前中止になりました「全国健康福祉剣道交流大会」が、令和七年十月十八日から二十一日まで、岐阜県で開催されることになりました。こうした大会や各種の全国・東海・県内の大会に向けて更に稽古に精進していただき、レベルアップを図っていただきますようお願いいたします。

今回ここに「第五十三号岐剣連広報」を発行するにあたり、昨年一年間の選手の皆さんの活躍を掲載させていただきました。

今後も皆様の御協力を賜りながら、伝統ある剣道をさらに普及・発展させるため、広報活動にも力を入れ、連盟の強化に取り組んでまいります。

皆様の益々の御健勝をお祈り申し上げて、あいさついたします。

# 全国大会の成績

## 国民体育大会

### 栃木国体

少年女子監督 前川 矩英

監督 前川 矩英（高山西高等学校）  
 コーチ 川畑 竜也（済美高等学校）  
 コーチ 平澤 直弥（大垣北高等学校）

選手  
 先鋒 高瀬 円香（済美高等学校）  
 次鋒 若尾 樺子（高山西高等学校）  
 中堅 森 文那（高山西高等学校）  
 副将 井澤 言美（中京高等学校）  
 大将 樋口 恵淑（高山西高等学校）

東海ブロック大会では三重国体の強化を受け継いで勢いのある三重県が本命としてあげられる中、東海ブロックに臨みましたが、初戦の相手が本命である三重県だったのが結果的に良かったのだと思います。先鋒から気迫あふれる試合を展開してくれて良い流れのまま試合を進めることができました。結果三重県に5-0で勝つことができて、そのままの流れを維持し、3戦全勝で本国体出場を決めました。

本国体一回戦は鳥根県でした。先鋒・次鋒戦が勝利への鍵になると感じていましたが、高瀬選手（済美高校）、若尾選手



少年女子岐阜県チーム

（高山西高校）が気迫あふれる試合で、前2つ勝利で中堅につながることができました。中堅・副将・大将はその勢いのまま勝利を収めることができ、初戦を5-0で勝ち抜くことができました。二回戦の相手は香川県でした。この試合も先鋒・次鋒が1本勝ちで勝利してくれて、2-0で中堅戦となりました。中堅戦試合の中盤で、森選手（高山西高校）が思いきった面を打ち込んだのですが、相打ちになり1本負け。副将井澤選手（中京高校）も攻める間もなく2本負け。2-2の本数負けの状態で大將戦となりました。岐阜県の大將を務めていた樋口選手（高山西高校）が終始攻め続けて惜しい技もたくさんありましたが結果引き分けとなり、

勝者数2-2・本数2-3で二回戦敗退となり、5位という結果となりました。この本大会に出場するにあたり、岐阜県剣道連盟理事長である下島先生をはじめたくさんの方の先生方にご支援とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。今回の大会での経験を生かし、来年度の東海ブロック大会に向けて高体連剣道専門部強化委員一同精進していきます。本大会にありがとうございました。

### いちご一会とちぎ国体

成年男子監督 近藤 宏治

新型コロナウイルス感染症の拡大により、3年ぶりの開催となりました栃木国体が、10月3日から10月5日までの間、ユウケイ武道館（栃木県総合運動公園武道館）で行われました。

#### 成年男子選手

先鋒 小林 賢哉（岐阜県警察）  
 次鋒 大野 祐史（岐阜県警察）  
 中堅 野田 了（岐阜県警察）  
 副将 早田 千広（日本耐酸塩）  
 大将 浅野 英二（岐阜県警察）

本大会は、過去の大会と異なり、試合時間内に勝負が決まらなかつた場合は、引き分けとなり、チームの勝者数、取得本数が同点の場合は、代表者の一本勝負によりチームの勝敗を決定することとなりました。

#### 1回戦 岡山県戦

先鋒 小林 開始早々面返し胴を決めるも、その後面を返され引き分け。次鋒 大野 試合中盤に面を決められ一本負け。中堅 野田 相手の動きをよく見て

面の一本勝ち。副将 早田 実力者に対して果敢に攻めるも小手と面の二本負け。大将 浅野は、果敢に攻め技を出したところ小手と面を決められ二本負け。チームの結果は、1対3で敗退しました。栃木国体出場に際しまして、ご支援、ご指導いただきました皆様に感謝申し上げます。

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
岐阜県	小林	大野	野田	早田	浅野	△ 2 1
岡山県	丸山	川井	尾池	楠本	馬場	○ 6 3

### 第43回東海ブロック大会

令和四年度国民体育大会第四十三回東海ブロック大会剣道競技が、八月二十一日（日）岐阜県多治見市の「感謝と挑戦のTYK体育館」で開催されました。

東海四県の三重、愛知、静岡、岐阜でリーグ戦方式で行われ、岐阜県は、少年女子が、一位の好成績を収めました。試合結果は、次のとおりです。

少年男子の部

県名	三重	愛知	静岡	岐阜	勝数	勝者数	勝本数	順位
三重		$\frac{0}{0}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{4}{2}$	1	5	10	3
愛知	$\frac{8}{5}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{6}{4}$	2	11	16	1
静岡	$\frac{6}{2}$	$\frac{3}{3}$		$\frac{5}{4}$	2	9	14	2
岐阜	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$		1	5	7	4

成年女子の部

県名	三重	愛知	静岡	岐阜	勝数	勝者数	勝本数	順位
三重		$\frac{3}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$	1	4	7	3
愛知	$\frac{4}{2}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{6}{3}$	3	7	14	1
静岡	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{4}{2}$	2	5	8	2
岐阜	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	2	3	4

少年女子の部

県名	三重	愛知	静岡	岐阜	勝数	勝者数	勝本数	順位
三重		$\frac{5}{2}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{0}$	0	2	7	4
愛知	$\frac{5}{3}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$	1	6	11	3
静岡	$\frac{7}{5}$	$\frac{5}{4}$		$\frac{4}{2}$	2	11	16	2
岐阜	$\frac{6}{5}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{5}{3}$		3	11	15	1

都道府県対抗剣道大会

監督 吉田 則文

第七十回全日本都道府県対抗剣道優勝大会が四月二十九日(祝)、エディオンアリーナ大阪にて開催されました。本大会は、昭和二十七年全日本剣道連盟設立の翌年五月に、京都大会の一部として開催された歴史ある最初の全国大会であり、今回は、七十回目の節目となる記念すべき大会となりました。

この記念となる大会に岐阜県勢は、以下の布陣で上位入賞を目指し挑みました。  
 先鋒 宮川 海流(高山西高等学校)  
 次鋒 石原 応記(中京大学)  
 五将 藤井 健介(岐阜刑務所)

中堅 長屋 貴則(岩野田中学校)  
 三将 伊藤 崇司(岐阜県警察)  
 副将 谷村 祐樹(日本耐酸塩)  
 大将 森井 俊秀(日本耐酸塩)

一回戦の相手は、令和六年に国体を控え選手強化が図られている佐賀県でした。先鋒宮川選手、スピードある攻めで果敢に攻めるも中盤引き面を先取され、終盤取り返そうと面に出たところを小手に押さえられ負け。

次鋒石原選手、相手の勢いに面を先取されるもすぐさま出端面で対とし、続いて相手が不用意に突いてきたところを見事な返し面で勝利し一勝一敗の五分に。

五将藤井選手、相手の強い攻めにも臆することなく攻め返し、随所に良い機会をとらえた打ちを出すも引き分け。

中堅長屋選手、急遽選手変更としての出場。出端技の良い機会をとらえた打ちで積極的の攻めるも有効打突とはならず引き分け。

三将の伊藤選手、何とか勝利しリードをと、再三にわたり技を繰り出すも相手も強者、両者有効打突なく引き分け。

副将谷村選手、相手は体格良い上段の選手。序盤、上段に対しての小手、面返し面と良い機会をとらえて攻めるも、終盤上段からの面を二本合わせられ負け。本数によりここで勝負が決まる。

大将森井選手、何とか勝者数だけでも対にしようと思つた攻め、相手の打突部位を捉えそうな惜しい打ちを出すも決め手なく引き分け。

結果、一対二で初戦敗退となりました。しかし、二年後に国体を控えた佐賀県チームに対し引けを取ることの無い立派な試合内容でありました。

最後に、まだまだコロナ感染症が十分収束しきれていない中ではありますが、感染対策を十分とりながら、本大会出場選手は勿論のこと各職域の一人一人が全国大会で活躍できる力をつけるべく、日々の稽古に一生懸命励んでいただくことを心より願うところであります。



第14回 都道府県対抗 女子剣道優勝大会

監督 富多 ちはり

七月十日(日)三年ぶりに日本武道館を会場とし、大会が開催されました。

本年度は全日本剣道連盟設立七十周年を記念し、初めての七人制で行われることになりました。五人制とは違い、どの



ような試合の展開になるのか予想がつかない思いでした。

- 先鋒 高校生
- 次鋒 大学生
- 5将 18歳以上の者

- 中堅・3将 (高校生・大学生除く) 30歳以上の者
- 副将 40歳以上の者
- 大将 50歳以上の者

というチーム編成です。大将になる選手は、実戦から離れている選手が多いです。再び全国大会の選手となり、試合勘や気持ちを作り直すのに苦労されたことと思います。

岐阜県チームは、二回戦からのスタートです。七人制ということもあり、初戦が始まるのが正午過ぎです。アップから長い時間待つことで、選手のコンディション、モチベーションが心配されましたが、選手たちは目の前の試合に集中していました。

初戦は、長野県と代表戦までもつれ勝利した山梨県です。先鋒、次鋒と勢いのある試合をしてチームの流れを作ってくれました。その後五将から三将が勝ち、勝負が決まりました。四勝一敗二分の快勝でした。このままの勢いに乗りたいたところでした。

三回戦は大分県です。大将の「私たちは挑戦者！」という声かけで、全員が気を引き締めて臨みました。しかし、先鋒と次鋒が敗退し、五将もあと数秒のところまで一本取られ苦しい展開になりました。ここで中堅吉田選手が二本勝ち。続く三将竹村選手も二本勝ちと踏ん張り、岐阜に流れが向いてきたと思われましたが、

結果二勝四敗一分で敗退という結果に終わりました。

試合後は、それぞれ自分の課題を振り返り、お互いに反省点を出し合って、長い間話し合いが続いていました。負けを受け入れ、個人やチームとしての課題を振り返ることは大事であり、次への大きなステップに繋がることであると思います。来年はこの悔しさを晴らす、強い岐阜の試合が出来ることを期待します。今後、諸先生方のご指導、仲間の皆様の応援をお願いします。

- 選手
- 先鋒 高瀬 円香 (済美高校)
  - 次鋒 山下 璃子 (順天堂大学)
  - 5将 阿部 なるみ (刑務官)
  - 中堅 吉田 沙紀 (刑務官)
  - 3将 竹村 奈緒美 (会社員)
  - 副将 中川 節絵 (教員)
  - 大将 荻田 ひろ美 (教員)



女子岐阜県チーム

試合結果

2回戦

	先鋒	次鋒	5将	中堅	3将	副将	大将	勝敗
岐阜	高瀬	山下	阿部	吉田	竹村	中川	荻田	9/4
山梨						ココ		3/1

3回戦

	先鋒	次鋒	5将	中堅	3将	副将	大将	勝敗
岐阜	高瀬	山下	阿部	吉田	竹村	中川	荻田	4/2
大分								5/4

全日本選手権に出場して

中村圭作



令和四年十一月三日、日本武道館において開催された第七十回全日本剣道選手権大

会に岐阜県代表として出場させていただきました。

五千人での有観客での開催ということで、盛り上がりや熱気が以前のように戻ってきたことを嬉しく思いました。

一回戦の相手は、東京都代表の安藤選手でした。昨年まで北海道警察に所属し、今年からは母校の大学で教員として勤務されている選手です。過去には本大会での上位入賞や世界選手権優勝、今年の教職員大会でも優勝するなどし、実力実績共に申し分ない有名選手です。

組み合わせが決まり、対戦相手が安藤選手と聞いて、私はとてもワクワクした気持ちになりました。普通なら強い選手と当たりたくないと思うのが常ですが、それ以上に優勝候補の安藤選手と最高の舞台で戦える喜びの方が大きかったです。

安藤選手と戦うにあたり、私は「心に決めていたことがあります。それは、『自分から攻めて技を出す』ということです。これには大きな理由が二つあり、一つは安藤選手が非常に攻撃力が高い選手だからです。全ての技を非常に高いレベルで繰り出してくる相手に対し、受けに回れば勢いに飲まれてしまうのが危惧しました。

もう一つの理由は最高の舞台で試合ができるのだから、後悔のない剣道をしたかったからです。防衛ばかりして、技を出さずに終える事だけは避けたいです。結果的に二本取られて負けましたが、勝負にいったところですので後悔はありません。

今回の経験は私の剣道人生において大切な財産、宝物となりました。まだまだ弱輩者でありますので、今後とも皆様にはご指導の程宜しくお願ひ致します。

# 全日本女子選手権に出場して

竹村 奈緒美



第六十一回全日本女子剣道選手権大会に出場できましたことに、まずは常日頃からご指導ご支援、ご協力をいただいております。ありがとうございます。

十回目の全日本出場という、長いようであつという間だったこの十二年間は、一言では言いようのない貴重な時間となりました。そしてこの先の未来にとつてもこの十二年という月日は、大切にしていかなければいけない時間だと思っています。

さて、本大会では初戦より、名実ともに日本を代表する選手、そして大学時代、共に稽古に励んだ後輩との戦いとなりました。組み合わせが決まり初戦の相手を知った時は、

「まさか」

という思いと同時に、この記念となる十回目に、こんなに素晴らしい選手と試合ができることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、全日本選手権という舞台はやはり、試合当日はもちろん前日の選手打ち合わせから、全日本独特の雰囲気があり、総じて最高の舞台でした。このような舞台に立たせていただけなこと、最高の選手と試合ができたこと、

改めて、岐阜県剣道連盟、バローグループ、若草女子剣道クラブ、笠原少年団、そして両親に感謝しています。

二十六年間剣道と共に歩み、剣道を通じて繋がった縁は、私の宝物です。それを強く感じさせてくれた大会となりました。

結果としては満足できるものではありませんでしたが、後悔はありません。会場まで足を運んでくださった方、ライブ中継を見ながら応援をしてくださった方、結果を気にしながら待っていてくださった方、皆様のおかげで頑張ることができました。本当に、ありがとうございます。

## 東海四県大会

男子4位 女子2位

監督 近藤 宏治

本大会は、令和5年3月5日(日)新型コロナの影響を受け4年ぶりに静岡県武道館において開催されました。

試合は、男子の部12人制、女子の部5人制でそれぞれ年齢別で指定され、男子は更に職業別で選手人数を定められたチーム構成で、男女とも4県によるリーグ戦で行われました。

女子については、過去2年連続で準優勝というところで、あと一步のところ優勝を逃してきました。「今年こそは」という意気込みで試合に臨みました。

初戦の愛知戦は、慎重になりすぎ全体的に消極的な内容で、1本も取ることができず敗戦しました。試合後、「積極的に攻め、思い切って打つこと」を指示しました。静岡戦では、先鋒の2本勝ちで勢いが

つき、どの試合も愛知戦とは別人のような試合内容で勝利し、最後の三重戦もその勢いのまま勝利することができました。

結果は、2勝1負の準優勝でした。優勝を目指していましたが、残念な思いですが、それぞれの課題に向き合い、来年の優勝を目指して、精進してまいります。

男子の愛知戦は、序盤から中盤にかけて粘り強い試合展開でリードするも、後半自力に勝る愛知に逆転負けを喫しました。

2試合目の静岡戦は、「有効打突だと思つた打ちが1本にならず。また、相手の打ちを防いだが1本になる。」など不運が続く序盤からリードを許す苦しい展開で、後半巻き返すことができず敗戦。次の三重戦は、序盤から引き分けが続く展開で、前半終了時で全くの五分でしたが、後半は、三重県の勢いを止めることができず3連敗の4位の残念な結果でした。

県を代表する選手による試合ですので、自分の思い通りにいかない厳しい試合でしたが、素晴らしい勝ち方をする選手や最後まで必死に1本を守り抜く選手など岐阜県選手の中にも感動を与える試合がありました。

選手の皆さんには、今回の試合で感じ取ったことを今後に生かしていただきたいと思います。

最後に、本大会に際しまして、ご指導ご支援いただきましたことに感謝申し上げます。有り難うございました。

### 出場選手

- 女子の部
- 先鋒 外山 菜緒 警察官
- 次鋒 阿部なるみ 刑務官
- 中堅 猪俣ひかり 刑務官

### 男子の部

- 副将 中川 節絵 教員
- 大将 曾我司保子 団体職員
- 先鋒 中西 港 教員
- 次鋒 江口 海里 刑務官
- 10将 伊藤 雄平 警察官
- 9将 伊藤 崇司 警察官
- 8将 岩崎 俊成 会社員
- 7将 坂本 太一 教員
- 6将 石垣 徳久 自営業
- 5将 高木 和哉 刑務官
- 4将 樽本 吉秋 警察官
- 3将 森井 俊秀 会社員
- 副将 石樽 和巳 会社員
- 大将 村瀬 智泰 教員

### 女子の部

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
愛知県	中村	早川	迫	高松	森島	3 2
		ドメ			メ 一本勝	
岐阜県	外山	阿部	猪俣	中川	曾我	0 0

女子の部

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
岐阜県	外山	阿部	猪俣	中川	曾我	
	コ 一本勝	メ メ				$\frac{3}{2}$
三重県					コ メ	$\frac{2}{1}$
	長谷川	井上 彩	川口	西村	井上 美	

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
岐阜県	外山	阿部	猪俣	中川	曾我	
	メ ド		メ メ			$\frac{4}{2}$
静岡県						$\frac{0}{0}$
	宮坊	寺田	秀徳	松原	美和	

男子の部

	先鋒	次鋒	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
愛知県	澤井	塩谷	野地本	海野	野々山	村瀬	西山	佐藤	津田	上山	関屋	勝野	
		メ コ	メ					メ 一本勝	ド 一本勝			ド 一本勝	$\frac{6}{4}$
岐阜県			ド メ	一本勝 メ			一本勝 メ				一本勝 メ		$\frac{5}{4}$
	中西	江口	伊藤 雄	伊藤 崇	岩崎	坂本	石垣	高木	樽本	森井	石樽	村瀬	

	先鋒	次鋒	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
岐阜県	中西	江口	伊藤 雄	伊藤 崇	岩崎	坂本	石垣	高木	樽本	森井	石樽	村瀬	
		メ メ				メ 一本勝				コ			$\frac{4}{2}$
静岡県	一本勝 メ		一本勝 ド	一本勝 メ	コ メ		メ コ			メ	メ コ	コ メ	$\frac{12}{7}$
	設楽	内野	森田	望月	秀徳	菊池	松原	野崎	片岡	梅下	妻木	高田	

	先鋒	次鋒	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
岐阜県	中西	江口	伊藤 雄	伊藤 崇	岩崎	坂本	石垣	高木	樽本	森井	石樽	村瀬	
						メ ツ							$\frac{2}{1}$
三重県					メ メ		コ メ	メ メ	コ メ	一本勝 メ		一本勝 コ	$\frac{10}{6}$
	鈴木	玉置	井上	田中	山下	糸島	小西	西村	駒田	河合	川嶋	浜口	

総合成績表 女子の部

県名	愛知	岐阜	三重	静岡	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛知県		$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{7}{4}$	3	8	13	1
岐阜県	$\frac{0}{0}$		$\frac{3}{2}$	$\frac{4}{2}$	2	4	7	2
三重県	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{5}{3}$	1	4	7	3
静岡県	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	2	2	4

総合成績表 男子の部

県名	愛知	岐阜	三重	静岡	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛知県		$\frac{6}{4}$	$\frac{8}{6}$	$\frac{13}{8}$	3	18	27	1
岐阜県	$\frac{5}{4}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$	0	7	11	4
三重県	$\frac{5}{5}$	$\frac{10}{6}$		$\frac{6}{4}$	1	15	21	3
静岡県	$\frac{7}{3}$	$\frac{12}{7}$	$\frac{7}{4}$		2	14	26	2



# 全国青年大会に参加して

大将 所 勇介

初めにこの度第七十回全国青年剣道大会に出場し、常日頃からご指導ご鞭撻いただきありがとうございます。ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

今回の全国青年大会はコロナ禍の影響で三年ぶりの開催となりました。三年前の団体戦は初戦敗退だったので、今年は優勝を目標に選手全員が一致団結して臨みました。

先鋒 大木 和也  
次鋒 野見山広次  
中堅 島戸 貴由  
副将 清水 孝剛  
大将 所 勇介

第一試合は岩手県との対戦でした。初戦ということもあり、先鋒の大木がチーム全体を勢いづかせるため積極的に攻めました。小手を先取され、取り返すために奮闘するも面を打たれ二本負け。

次鋒野見山が取り返すために果敢に攻めました。相手の思い切った面を打たれ一本負け。

先鋒、次鋒が終了した時点で二敗しており、厳しい状況でしたが、中堅島戸が試合の流れを変える思い切りのある打突で先取し、その後も試合の流れをつかみ面を取り二本勝ち。

副将清水は面を打ち切ったところ、胴を返され先取されますが、改めて相手が居ついたところで面を打突して取り返し、その後は相手をよく見て面に来たところに胴を抜いて二本勝ち。

大将所が二勝二敗の大将戦。お互いの

間合いを探る中で相手の剣先が下がったところで面に飛び込み先取。その後に、相手の攻めをさばききれず小手をとられ延長戦へ。打突後の間合いを取った後にさらに後退しているところを一步前進し面を打突。結果これが一本となり二本勝ち。苦しい状況ながらも二回戦へ進出しました。

二試合目は東京都との対戦でした。先鋒戦は攻めて相手が防御で体を崩したところに逆胴で一本先取しましたが、その後面を取られ、延長戦で小手を取られ敗戦。次鋒戦は面を先取され時間いっぱい責めましたが取り返すことができず一本負け。中堅は果敢に攻めましたが面を打ったところ、胴を抜かれそのまま取り返すことができず一本負け。この時点でチームの敗戦は決定してしまいました。

副将清水が小手を先取。その後、突きを打たれ追いつかれるも落ち着いた攻め、小手で二本目を取り勝利。大将は試合中盤で面を取られ、時間いっぱい攻めるも取り切れず一本負け。

二回戦目は一勝四敗で敗退となりました。最終的に全体ベスト8の敢闘賞という形で大会を終りました。

前回大会の成績は超えられたものの、目標及ばず、応援していただいたたくさんの方々には申し訳ない結果となりました。まいったが、選手は全員が自分の精一杯を出し、頑張ってくれたかと思えます。

今大会での経験を、これからの剣道だけでなく、普段の私生活の中でも無駄にすることなく、精進していきたいと思えます。最後になりましたが、剣道は相手がいなくとも本当に多くの方に助けていただき

ながら成り立っているということに改めて感じました。それは剣道に限られたことではなく、どんなことも周りの方々に支えられて成り立っていることを忘れることなく、常に感謝の気持ちをもって剣道に励んでいきたいと思えます。



男子団体岐阜県チーム 敢闘賞

## 第七十回全国青年剣道大会

大将 宮田 和枝

十一月十二日、十三日、東京武道館にて第七十回全国青年剣道大会が開催されました。今大会は、新型コロナウイルスにより三年ぶりの開催で七十回目という節目の大会になりました。

十二日開催の団体の部では  
先鋒 清水 梨帆 (大学生)  
中堅 市来 真林 (会社員)  
大将 宮田 和枝 (会社員)

チーム一丸となって試合に臨みました。一回戦、神奈川県と対戦。先鋒清水は、返し胴で一本勝ち。中堅市来は、延長ま



女子団体岐阜県チーム

で粘りますが出ばな小手を取られ一本負け。大将宮田は、相手に引き出され返し胴を取られ一本負け。チームは二対二で初戦敗退となりました。

入賞を目標に臨んでいましたので悔しさと課題が残る試合となりました。初戦の神奈川県は順調に勝ち上がり優勝を決めました。優勝したチームは、一戦一戦粘り強く、このこという場面ですかさず技を出し勝利を決めていきました。優勝したチームと対戦できたことは私たちにとても良い経験、良い刺激となりました。

また、十三日開催の個人の部には、団体の部出場の三人も試合に臨みました。その結果、宮田は、敢闘賞(ベスト8)に入賞することができました。

今大会で得た課題を、今後の稽古に活かし、各種大会で良い結果を取られるよう稽古に励んでいきます。

最後に、歴史ある大会に参加させていただきありがとうございます。今後ともご指導よろしくお願いたします。

# 岐阜県剣道選手権

七月九日(土) 第六十六回岐阜県剣道選手権大会が、OKBぎふ清流アリーナで開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大予防策として、昨年と同様、小学生から高校生を除く一般のみの参加の大会となりました。一般女子から高齢者の部まで百六十八人の選手の参加により、熱戦が繰り広げられました。

結果は、次のとおりです。

## ○試合結果

### 一般女子30歳未満の部

- ①早矢仕真帆 ②木村 桃子
- ③岩田 美海

### 一般女子30歳以上50歳未満の部

- ①猪俣ひかり ②足立 佳恵
- ③山北 麻未

### 一般女子50歳以上の部

- ①益田亜希子 ②曾我司保子
- ③星山 正子

### 二段の部

- ①山腰 真史 ②年徳谷一哲
- ③安藤 嘉伸

### 三段の部

- ①田口 悠斗 ②石樽 大暉
- ③松井謙之介

### 四段の部

- ①中西 港 ②伊藤 雄平
- ③新田 家己

### 五段の部

- ①伊藤 崇司 ②大野 祐史
- ③玉井 裕也

### 六段の部

- ①五十嵐 洸 ②合村 祐樹
- ③栗本 匠



各部門優勝者のみなさん

### 七段の部

- ①江原 寛二 ②白川 順一
- ③加藤 洋基

### 高齢者の部

- ①山崎 昌彦 ②日野 智之
- ③森下 真次

## 東西対抗 六地区大会

# 岐阜市で開催

### 東西対抗・西軍優勝

### 六地区大会・岐阜地区優勝

神谷 正敏

朝から雨が降り、初秋の小寒い日となりましたが、十月十日(祝)岐阜市南スポーツセンターにおいて、第四十四回岐阜県東西対抗剣道大会、並びに第六十回岐阜県六地区対抗剣道優勝大会が開催されました。

国歌斉唱の後、前回東西対抗優勝の西軍、同六地区対抗優勝の中濃地区から優勝杯が返還されました。続いて堤俊彦会長から選手へ激励挨拶があり、その後、高石和摩審判長から本大会に関しての注意事項の説明がありました。次いで中濃地区大将の鷲見善久選手から力強い選手宣誓がありました。

試合の開始前には、まだ、コロナ禍ということもあり、櫻井智明先生と木島秀幸先生による暫定的な試合・審判法の具体的な説明があり、徹底するよう指導



熱戦が展開された選手権大会

がありました。

午前の部は、六地区対抗試合が行われ、第一試合場では、中濃地区・加茂地区・岐阜地区によるリーグ戦。第二試合場では、西濃地区・飛騨地区・東濃地区によるリーグ戦が行われました。

その結果、第一試合場では、岐阜地区が、第二試合場では、東濃地区が、リーグ一位となり、決勝戦に進むことになりました。

決勝戦では、一進一退の接戦となりましたが、大将戦で岐阜地区が勝ち、優勝するという結果となりました。

なお、三位決定戦は、各予選リーグ二位の中濃地区と西濃地区の対戦となり、三勝一敗三引き分けで、中濃地区が勝ちを収めました。

午後からは、雨も上がり晴天にも恵まれ東軍と西軍に分かれ、対抗試合が行われました。

東軍加藤尚喜・西軍瀧戸八起監督のもと、熱戦が繰り広げられました。

西軍は、先鋒の吉田沙紀選手が面を

先取されたものの、面を二本取り返し一勝。次鋒清水美紀子選手も、面を先取し、幸先良く二連勝。続く、十五将花木真人選手は、面を二本・十四将今藤憲大選手も小手を二本決め、勝ちを収め、四連勝。十三将は、引き分け。東軍は、十二将野中聖司選手が、面二本を決め、連敗を食い止めたかたちとなりました。

続く、十一将は、引き分け。十将の東軍澤田憲孝選手が、面二本を決め、二勝とし、流れを東軍に引き寄せようとするものの西軍は、中堅石樽和巳選手から七将神谷憲一選手まで連勝し、ここまで、西軍は七勝二敗二引き分け。続く、六将都竹直孝選手が、面と胴を決め、この時点で西軍の勝ちが決まるという結果になりました。

終わってみれば、西軍の十勝三敗四引き分けという内容でした。東軍・西軍とも、持ち前の技を出し、手に汗握る好試合が展開されました。

閉会式では、東西対抗及び六地区大会団体戦の表彰の後、六地区対抗の全勝選手として、岐阜地区の鈴木晃司選手・西濃地区の松井直也選手・東濃地区の竹村奈緒美選手・市来真林選手が表彰されました。また、東西対抗優秀選手として、西軍からは花木真人選手、神谷憲一選手が、東軍からは、今井雅人選手が表彰されました。

閉会式では、堤俊彦会長から、東西対抗大会・六地区対抗大会とも、激しい試合もあり、また、見応えのある試合を見せてもらい感動しました。今後もさらに活躍されることを期待します。とお褒めの言葉と選手の今後の活躍への激励のあいさつがありました。

本大会担当の岐阜地区といたしました皆様の御協力により、無事終了できましたこと、感謝申し上げます。

### 六地区対抗決勝戦の結果

先鋒	川島 悠正	＊	小田 貴也
次鋒	熊田原 昌	―	市来 真林
五将	中西 港ド	―	吉田 貫司
中堅	高橋 香織	―	メコ 竹村奈緒美
三将	政綱 諒治	メ	山本夢佐士
副将	足立 佳恵	＊	高石 靖子
大将	鈴木 晃司	メ	則武 将文

### 東西対抗戦の結果

監督	加藤 尚喜	瀧戸 八起		
先鋒	佐合 季美	メ	吉田 沙紀	
次鋒	後藤 弓江	―	清水美紀子	
15将	荒垣 雅行	―	メ	花木 真人
14将	真野 純次	―	メ	今藤 憲大
13将	平野 千尋	＊	木幡 太	
12将	野中 聖司	メ	高橋 雅和	
11将	菊池 保文	メ	杉江 正直	
10将	澤田 憲孝	メ	熊崎 浩二	
中堅	二村 匠	＊	メ	石樽 和巳
8将	金子 政則	ド	メ	杉山 豊和
7将	吉野 雅人	ド	メ	神谷 憲一
6将	今井 昭弘	ド	メ	都竹 直孝
5将	中島 浩平	―	メ	小池 徳久
4将	今井 雅人	メ	コ	島戸 和行
3将	奥山 万治	―	メ	松本 幸隆
副将	岩崎 正美	＊	青木 宏達	
大将	小林 良三	＊	メ	長縄 和夫



東西対抗優勝の西軍



六地区対抗優勝の岐阜地区

## 第14回 県民スポーツ大会

### 八百津町で開催

大型で非常に強い台風14号の接近で開催が危ぶまれましたが、九月十八日(日)第十四回県民スポーツ大会剣道競技が、八百津中学校体育館で開催されました。

今年度は、男子二十八チーム、女子十八チームが出場する大会となり、コロナ禍で、暫定的な試合審判法が適用されるなかではありましたが、鏑競り合いから、積極的に分かれる試合運びで、一回戦から熱い戦いが繰り広げられました。

男子の決勝戦は、大垣市と岐阜市の対戦となり、大将戦で決着となる手に汗握る試合となり、岐阜市が優勝、女子の決勝戦は、美濃加茂市と岐阜市の対戦となり、美濃加茂市が優勝しました。大会結果は、次のとおりです。

### ○総合成績

- |     |     |     |      |
|-----|-----|-----|------|
| 第一位 | 岐阜市 | 第二位 | 大垣市  |
| 第三位 | 郡上市 | 第四位 | 不破郡  |
| 第五位 | 加茂郡 | 第六位 | 多治見市 |
| 第七位 | 養老郡 | 第八位 | 揖斐郡  |

### ○男子の部

- |       |      |      |
|-------|------|------|
| ①岐阜市  | ②大垣市 | ③加茂郡 |
| ④不破郡  | ⑤養老郡 | ⑥揖斐郡 |
| ⑦多治見市 | ⑧郡上市 |      |

### ○女子の部

- |        |      |       |
|--------|------|-------|
| ①美濃加茂市 | ②岐阜市 | ③郡上市  |
| ④各務原市  | ⑤大垣市 | ⑥多治見市 |
| ⑦高山市   | ⑧揖斐郡 |       |





総合優勝 岐阜市



男子優勝 岐阜市



女子優勝 美濃加茂市

# 生涯 剣道

## 岐阜県健康福祉祭剣道交流大会

五月二十一日(土)、第三十一回岐阜県健康福祉祭剣道交流大会が、大垣市武道館で開催されました。

午前には三試合会場に分かれ、六地区による対抗団体戦と女子(五十歳以上の部)が開催されました。

午後からは、全国健康福祉祭に出場する選手の予選を兼ねた試合となりました。結果は、次のとおりです。

### (一) 団体戦

- 一位 中濃地区
- 二位 西濃地区
- 三位 飛騨地区

### (二) 個人戦

#### ○第一部(六十歳以上六十五歳未満)

- 一位 小池 徳久
- 二位 安江 誠
- 三位 古田 秀文

#### ○第二部(六十五歳以上七十歳未満の部)

- 一位 吉田 則文
- 二位 小林 良三

#### ○第三部(七十歳以上の部)

- 一位 前田 猛
- 二位 後藤 誠
- 三位 渡辺 修治

#### ○女子の部(五十歳以上の部)

- 一位 佐曾利めぐみ
- 二位 梅田 好子
- 三位 栢植 紀子



団体優勝 中濃地区

## 全国健康福祉祭

### 神奈川大会に参加して

監督 神谷 正敏

監督	神谷 正敏	岐阜市
先鋒	小池 徳久	養老郡
次鋒	安江 誠	加茂郡
中堅	古田 秀文	美濃市
副将	吉田 則文	郡上市
大将	前田 猛	関市
交代選手	和田 英見	大垣市

十一月十一日JR名古屋駅に集合。新幹線で新横浜駅へ。その後、市営地下鉄

で移動し、その日はホテルで宿泊。十一月十二日は、総合開会式(於、横浜アリーナ)へ参加。

総合開会式は、各県の旗手・選手団代表の入場行進から始まり、開会宣言の後、神奈川ゆかりのアーティスト河村隆一さんによる国歌独唱。その後、黒岩神奈川知事・室伏広治スポーツ庁長官のあいさつ、三笠宮彬子女王殿下のお言葉がありました。

今回の開会式は、いまままでにない趣向をこらしたイベントが多くあり、ねんりんピック特別応援団長の草笛光子さんと開催地代表の知事や市長によるモニユメント点灯などもありました。

十一月十三日剣道交流大会は、神奈川県伊勢原市体育館で開催されました。

開会式の前には、歓迎アトラクションとして和太鼓集団「明晴」演奏があり、大会を盛り上げていただきました。

伊勢原市長大会会長のあいさつや審判長注意の後、宮崎正裕教士八段と宮崎史裕教士八段による日本剣道形の演武をみせていただきました。

全国各地から六十七チームの選手が参加し、一日目は予選リーグ、二日目は、決勝トーナメント方式で試合が行われました。

一試合目岐阜県は、新潟市と対戦。先鋒の小池選手は、小手を先取され、その後、相手が面に出てくるところを返し胴を決め、勝負に持ち込みました。その後、小手を打った後、面を取られ、惜しくも負けはしましたが、試合内容は、良かっただけに悔やまれる試合となりました。続く、次鋒の安江選手は、お互い、なかなか決めての技が出ず、引き分け。



中堅の古田選手は、相手が出ようとすると、面二本を決め、勝ち。副将の吉田選手は、上手く攻め、面と小手を決め、二本勝ち。大将の前田選手は、相手の手元が上がったところを小手を決め、先取しましたが、その後、小手を攻めたところを抜かれ、面を取られて引き分けとなりました。結果として、二勝一敗二引き分けで勝ちを収めました。

二試合目は、山口県と対戦。先鋒の小池選手は、面返し胴で幸先良く一本を先取しましたが、その後、相手の担ぎ技により面を取られてしまいました。三本目は、小池選手も面を攻めたが、相手の面が一瞬早く面をとられてしまいました。小池選手は、もっている力を充分に發揮されましたが、結果として有効打につながりませんでした。次鋒の安江選手は、有効打に近い技もありましたが、認められず、引き分け。中堅の古田選手は、相手が小手を攻めにくところをうまく面を先取。その後も、相手が出ようとすると、面を上手く面を決め、二本勝ち。副将の吉田選手は、相手が小手を打ち、鰐ぜりになりかけた瞬間、引き面を打たれ先取されましたが、その後、攻めて手元が浮いたところを小手を決め引き分け。大将の前田選手は、小手を打ったところ、小手・面と攻められ、面を取られてしまい、その後も出ようとしたところ、小手を決められてしまいました。前田選手も大将戦という重責の中、積極的に技を出し、攻めの剣道をされましたが、有効打につながりませんでした。結果、一勝二敗二引き分けで敗戦となりました。

山口県は、その後勝ち進み、優勝戦ま



神奈川大会出場選手

でいきましたが、神奈川県Aチームに負け、準優勝でした。今回の大会から、交代選手の和田選手も、試合直前まで、共に汗を流し、稽古を積み重ねてこられ、いつでも出られるよう準備を進めてこられるとともに、他の選手たちの心を繋ぐ役割を担っていました。岐阜県の選手団は、選手一人ひとりが持っている技を充分に出し切り、予選リーグを突破し、決勝トーナメントへ勝ち進むことを目標に頑張ってきましたが、あと一步のところまで叶えることができませんでした。令和七年には、岐阜県(関市)で全国健康福祉祭を開催することになります。今回の神奈川大会で学んだ試合運びや運営方法を教訓に、さらに修練を積み重ね、頑張っていくことを誓い会場を後にしました。最後に、漱玉館における全国健康福祉祭に向けた選手強化に、御指導をいただきました。皆様に感謝申し上げます。

## 祝昇段

令和四年度の剣道・居合道の称号、段位(六段以上)合格者は、次の皆さんです。合格おめでとうございます。更なるご精武を祈念します。

### 《剣道称号》

●五月六日 京都

- 錬士 藤井 紀幸(加茂)  
青木 信秀(大垣市)  
梅田 好子(加茂)  
大場 純治(大垣市)  
高木 博久(大垣市)  
花木 真人(本巢)  
石博 和巳(岐阜)  
伊藤 大輔(岐阜)  
吉野 雅人(多治見)

●十一月十八日 東京

- 錬士 栗本 匠(岐阜)  
五十嵐 洸(岐阜)  
岩崎 俊成(中津川)  
福田 陽祐(本巢)  
日野 直人(大垣市)  
藤井 淳(大垣市)  
加藤 信基(岐阜)  
杉山 豊和(本巢)  
早野 壽人(大垣市)  
青木 透(本巢)  
山中 秀樹(土岐)  
佐藤 尚也(岐阜)  
中島 浩平(多治見)  
山岸恵美子(美濃)  
高井 治(加茂)

### 《剣道七段》

●五月十四日 愛知

- 江原 寛二(岐阜)  
白川 順一(岐阜)  
土屋 聡(加茂)  
吉田 貞明(各務原)  
高橋 孝久(関)  
日野 智之(岐阜)  
道上 勝彦(高山)

### 《剣道六段》

●五月十五日 愛知

- 荒川 佳洸(可児)  
長屋 貴大(各務原)  
堀内 宣秀(加茂)  
藤代 勝也(郡上)  
鈴木 晃司(各務原)  
植田 和明(中津川)  
安田康次郎(各務原)  
松井 茂幸(関)  
山本登志隆(恵那)  
市原ゆかり(関)  
川合 充生(岐阜)  
山路 基洋(本巢)

### 《剣道七段》

●八月二十日 新潟

- 中村 新吾(加茂)

### 《剣道六段》

●八月二十一日 新潟

- 伊藤 崇司(岐阜)  
霜出 剛史(飛騨)  
鳥澤 敦(加茂)  
南 敏広(飛騨)

《剣道七段》

●十一月十二日 愛知  
 齊藤 慎哉 (美濃)  
 後藤 一広 (本巢)  
 安藤 恵二 (本巢)  
 棚瀬 秀一 (本巢)

横尾 俊憲 (不破)

《居合道称号》

●十一月十八日 東京  
 錬士 栗本 英 (岐阜)  
 高田 斉 (岐阜)

《剣道六段》

●十一月十三日 愛知  
 末松健太郎 (関)  
 吉田 沙紀 (岐阜)  
 山中 進平 (岐阜)  
 岩崎つばさ (中津川)  
 佐藤 良宏 (郡上)  
 田中 亮司 (大垣市)  
 中澤 栄作 (郡上)  
 赤江 光晴 (本巢)  
 末松 大輔 (岐阜)  
 加藤 晴信 (可児)  
 大野 一美 (本巢)  
 村井 秀幸 (羽島郡)  
 西尾 太志 (恵那)  
 桜井かね子 (本巢)  
 伊藤 金司 (多治見)  
 金子 史朗 (中津川)  
 市岡 良平 (中津川)  
 伊藤 隆 (各務原)

《居合道七段》

●七月二十二日 岡山  
 渡辺 直 (加茂)

《居合道七段》

●十一月二十七日 東京  
 日比野卓也 (岐阜)

《居合道七段》

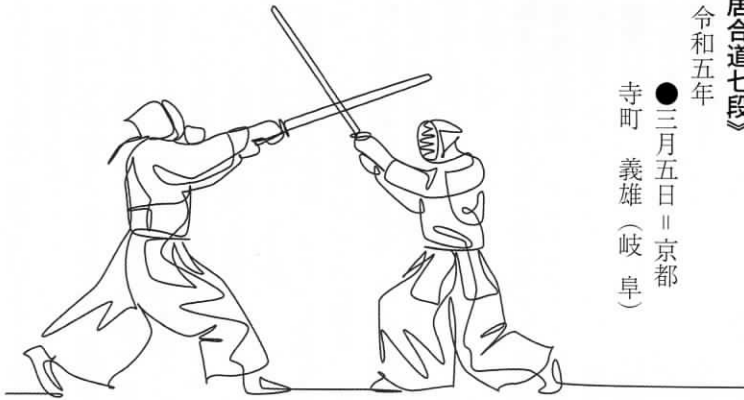
令和五年  
 ●三月五日 京都  
 寺町 義雄 (岐阜)

《剣道六段》

●二月十九日 長野  
 増田 晃一 (岐阜)

《剣道七段》

●二月十八日 長野  
 渡邊 貴佳 (本巢)  
 金子 宣樹 (岐阜)



# 少年剣道

## ◎第47回春季少年剣道錬成大会

六月十二日(日) 第四十七回春季少年剣道錬成大会が、OKBぎふ清流アリーナで開催されました。今回は、小学一・二年生の部、三年生の部、四年生の部、五年生の部、六年生の部の個人試合に六百二十四人の参加者により、トーナメント戦で試合が行われました。コロナ禍ということもあり、観客数の

入場制限や、会場内では、案内表示版に従い入口と出口を分けるなど、また、観客席を前後左右一人分を空けるなど感染対策をとりながらの開催となりました。試合前には、木島副審判長から「試合者は、鏝競り合いを避ける。やむを得ず鏝競り合いになった場合は、すぐに分かるか、引き技を出す」など、暫定的な試合・審判法について、説明がありました。試合の結果は、次のとおりです。

	優秀賞	優良賞	敢闘賞	敢闘賞
1.2年生の部	竹林 裕翔 (志道館)	加藤 愛奈 (志道館)	梶垣 真咲 (八心会)	武藤 陽輝 (関剣少)
3年生の部 (パート1)	加藤 結乃愛 (志道館)	三宅 翔大 (志道館)	片岡 陸人 (さくら会)	梅村 充 (羽島剣教)
3年生の部 (パート2)	加藤 優志郎 (志道館)	成瀬 満愛奈 (美濃加茂)	窄中 琴羽 (羽島剣教)	山腰 詠太 (穂積剣少)
4年生の部 (パート1)	小島 一 (若鮎剣志会)	乾 彩玖 (さくら会)	遠藤 圭悟 (緑苑剣少)	川島 悉花瑠 (誠心剣)
4年生の部 (パート2)	森山 心結 (八心会)	古森 奏志 (緑苑剣少)	渡瀬 月咲 (雙柳館前)	日比 悠真 (一剣)
5年生の部 (パート1)	池井戸 大晴 (下有知)	森 奏斗 (神武館)	河村 亮祐 (中島剣教)	脇本 佳奈 (志道館)
5年生の部 (パート2)	土橋 快都 (済命館)	内山 隼 (大垣西部)	荒井 陽翔 (済命館)	古田 紗羽 (大和)
5年生の部 (パート3)	牧 蒼空 (志道館)	リチャードン賢斗 (八心会)	小木曾 典 (済命館)	小澤 歩生 (大和)
6年生の部 (パート1)	大塚 心護 (誠心剣)	片桐 史陽 (滝呂剣少)	林 星偉 (さくら会)	清水 琉可 (池田町剣少)
6年生の部 (パート2)	市川 蒼士 (悟道館)	新屋 夏生 (八心会)	長瀬 裕紀 (桐生剣教)	宍戸 愛菜 (志道館)
6年生の部 (パート3)	三宅 真央 (志道館)	長谷部 結音 (究道館)	酒井 陽妃 (若鮎剣志会)	長田 莉緒 (桐生剣教)
6年生の部 (パート4)	後藤 桜 (悟道館)	多和田 妃珠 (志道館)	日置 駿光 (さくら会)	鈴木 虎太郎 (剣林館)



小学3年生 (パート2)



小学3年生 (パート1)



小学1・2年生



小学5年生 (パート1)



小学4年生 (パート2)



小学4年生 (パート1)



小学6年生 (パート1)



小学5年生 (パート3)



小学5年生 (パート2)



小学6年生 (パート4)



小学6年生 (パート3)



小学6年生 (パート2)



低学年の部 優勝 志道館学園

○低学年の部(3人制)

- 優 勝 志道館学園
  - 二 位 誠心剣友会
  - 三 位 大垣西部剣道少年団
- 羽島市剣道教室スポーツ少年団

十一月二十三日(祝)OKBぎふ清流アリーナにおいて、第四十九回岐阜県秋季少年錬成大会(団体戦)が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で三年ぶりに開催されました。感染防止上密を避けるため入場制限をするとともに、午前中に低学年の部(3人制)、午後から高学年の部(5人制)に分けて実施しました。試合者は面にシールドを貼り、口と鼻を押さえるマスクを着用しての試合となりましたが、どの選手も元気はつらつで熱戦を繰り広げ、大人顔負けの素晴らしい技の応酬があり、大いに試合が盛り上がりました。

試合結果は次のとおりです。

◎第49回秋季少年剣道錬成大会

- 高学年の部(5人制)
- 優勝 志道館学園  
 二位 さくら会少年剣道部  
 三位 大垣東部剣道少年団  
 若鮎剣志会



高学年の部 優勝 志道館学園

なお、本大会は後日「ぎふチャン」テレビで、試合の様子や入賞チームの紹介、個人のインタビューなどが放映され、非常に好評を博しました。

◎第17回全日本都道府県  
 対抗少年剣道優勝大会

日時：令和4年9月18日(日)  
 会場：おおきにアリーナ舞洲

- 選手
- 先鋒 市川 蒼士(悟道館後藤道場)  
 次鋒 小林 桃華(志道館学園小学生部)  
 中堅 林 星偉(さくら会少年剣道部)  
 副将 後藤 桜(悟道館後藤道場)  
 大将 三宅 真央(志道館学園小学生部)

規定大会にて上位入賞した総勢12名による厳しい最終選考会を突破した、精鋭5名が岐阜県少年選抜チームとして第17回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場しました。

強化の一環として、選抜チーム所属先に御協力いただいていたの強化練習、静岡県富士山杯遠征、滋賀県遠征、愛知県遠征を行い、万全の態勢で全国大会に臨みました。目標は2大会連続の予選リーグ突破です。

予選リーグ初戦、北海道との対戦を2-1で勝利。香川県が北海道に3-0で勝利したことから、予選リーグ突破には香川県戦での勝利が必須条件となります。

予選リーグ2回戦、一進一退の攻防が続き、先鋒から副将までは引き分けとなりました。決勝トーナメント進出は大將の三宅選手の勝利が必要となります。開始1分30秒を経過したところ三宅選手の素晴らしい面が決まり2大会連続の予選リーグ突破を果たしました。

決勝トーナメント1回戦、東京都との対戦は0-1で惜しくも敗れたものの全国大会にて2大会連続のベスト16入りを果たしました。

強化の過程で、誰ひとりとして妥協することなく、目標達成に向けた準備を徹底した選手は見事でした。今後の彼らの更なる成長に期待します。

最後になりましたが、強化に際し、御指導を頂いた岐阜県剣道連盟、岐阜県道場連盟、御協力をいただいた選手保護者様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(文責：加藤 洋基)

# 中学剣道の記録

今年度は、中学生を対象とした各種大会や育成・強化部による各種事業を、新型コロナウイルス感染症拡大以前の内容へと戻すことができました。

次年度も今年度同様の事業を継続しつつ、更なる競技力の向上と、中学生の育成を目指していきたいと考えています。

以下に、今年度の大会結果をご報告します。

◎令和四年度岐阜県中学校  
 総合体育大会剣道競技大会

令和四年七月三十、三十一日

OKBぎふ清流アリーナ

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、予選トーナメントを行い、その上で、決勝リーグを実施して、順位を決定しました。

男子団体戦東海大会出場校

- 大野中学校・関ヶ原中学校  
 神戸中学校・萩原南中学校  
 蘇南中学校

女子団体戦東海大会出場校

- 長森中学校・岐阜大学附属小中学校  
 日枝中学校・大和中学校  
 多治見中学校

男子個人の部

- 優勝 村上 宥皇③(高田)  
 準優勝 長谷川友哉③(美濃加茂)  
 第三位 森川 大翔③(蘇南)

- ベスト8 大矢 哲平③(美濃加茂)  
 長屋 健人③(三輪)  
 立花漱一朗③(羽島)  
 羽賀 壮馬③(大野)  
 大野 温史②(日枝)

女子個人の部

- 優勝 大門結希乃③(中山)  
 準優勝 松村 智嘉③(大垣西)  
 第三位 横山 紗来②(大和)  
 西脇 友柚③(上石津)  
 石原 彩伽③(岐大附属)  
 川島萌々華②(桜丘)

男子団体の部

- 優勝 美濃加茂中学校  
 準優勝 郡上市立大和中学校  
 第三位 養老町立東部中学校

- 優勝 郡上市立白鳥中学校  
 準優勝 池田町立池田中学校  
 第三位 岐阜市立境川中学校

右記以外に、東海大会出場校は、下記の通り。

全国大会には、



男子団体の部  
美濃加茂中学校  
女子団体の部  
郡上市立白鳥中学校



男子優勝 美濃加茂中



女子優勝 白鳥中

男子個人の部  
村上 岩皇③ (高田)  
長谷川友哉③ (美濃加茂)  
女子個人の部  
大門結希乃③ (中山)  
松村 智嘉③ (大垣西)

以上の中学校及び選手が全国大会へ出場しました。

◎第四十四回東海中学校総合体育大会

令和四年八月六、七日  
愛知県春日井市 春日井市総合体育館  
男子団体の部  
第三位 郡上市立大和中学校



男子個人の部 上位入賞 8 選手



女子個人の部 上位入賞 8 選手

なお、決勝トーナメントには、美濃加茂中学校も進出しました。  
女子団体の部  
ベスト8 池田町立池田中学校  
なお、決勝トーナメントには、白鳥中学校、日枝中学校が進出しました。

男子個人の部  
上位入賞は叶いませんでしたが、ベスト8には、村上 岩皇③ (高田)、羽賀 壮馬③ (大野) が進出しました。  
女子個人の部  
第三位 石原 彩伽③ (岐大附属)

昨年度は、男女ともに(団体の部・個人の部ともに)、上位入賞はありませんでしたが、今年度は、大健闘の結果でした。

◎第五十二回全国中学校剣道大会 北海道大会

令和四年八月十九、二十、二十一日  
北海道 湿原の風アリーナ釧路

女子団体の部 (八月十九日)  
白鳥 0-5 久御山中 (京都)  
グループトーナメント敗退  
男子団体の部 (八月二十日)  
美濃加茂 0-5 潮田中 (神奈川)  
グループトーナメント敗退

女子個人の部 (八月二十一日)  
一回戦  
大門 (中山) | コ野口 (福島)  
延長戦の末、敗退

松村 (大垣西) | メメ横原 (島根)  
男子個人の部 (八月二十一日)  
一回戦

村上 (高田) シード | メ武藤 (茨城)  
長谷川 (美濃加茂) | 延長戦の末、敗退

二回戦  
村上 (高田) メコ | 松村 (兵庫)  
三回戦  
村上 (高田) コ | 嶋田 (佐賀)  
延長戦の末、勝利

四回戦  
村上 (高田) | コメ中村 (熊本) | ベスト16

個人戦、団体戦ともに、最後まで諦めることなく、日頃の修練の成果を発揮しました。特に、個人戦では、男子の部において、村上選手が大健闘でした。

◎第十七回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

令和四年九月十八日  
大阪府 おおきにアリーナ舞洲

予選リーグ  
岐阜 2 | 1 秋田  
岐阜 5 | 0 徳島  
二勝し、予選リーグを突破。  
決勝トーナメント

一回戦  
岐阜 2 | 2 (代表) 千葉  
勝者数、取得本数ともに、同数であったため、代表者戦へ。健闘むなしく、敗退しました。  
ベスト16

## ◎第五十二回岐阜県中学校 新人剣道大会

令和四年十月二十九日  
OKBぎふ清流アリーナ

### 男子の部

- 優勝 郡上市立大和中学校
- 準優勝 関市立下有知中学校
- 第三位 関ヶ原町立関ヶ原中学校  
岐阜市立長森中学校

### 女子の部

- 優勝 郡上市立大和中学校
- 準優勝 郡上市立白鳥中学校
- 第三位 郡上市立郡上東中学校  
岐阜大学教育学部附属小中学校

今年度の新人大会は、新型コロナウイルス感染症対応により、各地区（七地区（岐阜地区を二つに分けた））予選大会を経て、実施しました。

## ◎令和四年度岐阜県中学校 育成大会

令和五年一月八日

岐阜メモリアルセンター剣道場

### 男子の部

- 優勝 武藤 大河（神戸中）
- 準優勝 澤田 耕太郎（本荘中）
- 第三位 北村 湊（郡上東中）
- 敢闘賞 小木曾 建士（恵那西中）

### 女子の部

- 優勝 後藤 夕季（本荘中）
- 準優勝 佐藤 心桜（島中）
- 第三位 安江 ひあら（加子母中）
- 敢闘賞 森 菜々美（高鷲中）

今年度、三年ぶりに育成大会（中学校から剣道を始めた生徒が対象）を実施しました。各地区予選大会を勝ち抜いた選手が集い、大変素晴らしい試合を展開しました。

## ◎第九回岐阜県中学校 七地区対抗剣道大会

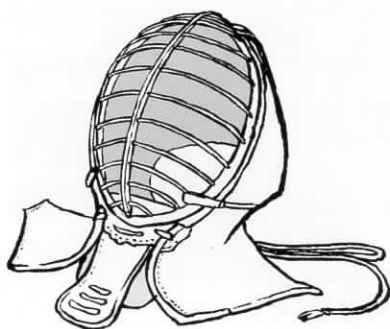
令和五年一月二十二日

安八町立登龍中学校体育館

- 優勝 西濃地区
- 準優勝 飛騨地区
- 第三位 美濃地区

本大会は、男女混合の五人制の団体戦で実施されました。各地区で選出された選抜選手が互いの地区のプライドをかけて戦いました。非常に見応えのある試合の連続であり、選手同士が切磋琢磨し合う姿に感動しました。次年度以降も、継続して実施していきたいと感じています。

岐阜県剣道連盟ジュニア事業部  
総括責任者 上出 篤史



# 高校剣道の記録

岐阜県高等学校剣道専門部

加茂高等学校 柘植 未来

## ◎第七十回岐阜県高校総体 兼第六十九回全国・東海高校 総体県予選会

五月二十一日（男女個人）

アテナ工業アリーナ

五月二十八日（女子団体）

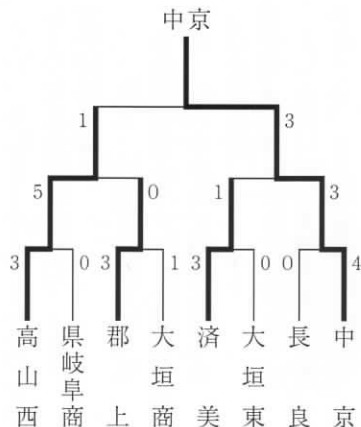
アテナ工業アリーナ

五月二十九日（男子団体）

アテナ工業アリーナ

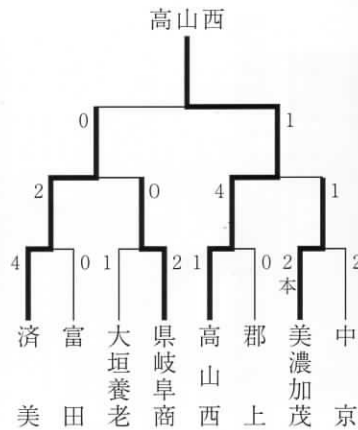
男子団体戦は中京が高山西を破り、二年連続十九回目の優勝を果たした。女子団体戦は高山西が済美を破り、二年連続三回目の優勝を果たした。

〔男子団体〕（四十三校出場）



男子優勝 中京

【女子団体】(三十二校出場)



女子優勝 高山西

※優勝校が全国大会へ出場。

ベスト四入賞校が東海大会へ出場。

男子個人戦では、中京の選手が安定した試合運びで勝ち上がり、優勝を果たし

た徳佐屋を含め、5人が入賞した。女子個人戦では、昨年度の県新人決勝と同じ対戦カードとなった。結果は済美の高瀬が接戦を制し、優勝の栄冠を手に入れた。

【男子個人】(百八名出場)

- 優勝 徳佐屋 樹(中京)
- 準優勝 黒井 洸希(済美)
- 三位 前田 健心(中京)
- 菅 航大(中京)
- 望月 朝陽(中京)
- 内匠 悠仁(中京)
- 森 健多(済美)
- 鈴木 凌冬(美濃加茂)



男子上位入賞 4選手

【女子個人】(九十四名出場)

- 優勝 高瀬 円香(済美)
- 準優勝 樋口 恵淑(高山西)
- 三位 森 文那(高山西)
- 吉田 夢華(関商工)
- 五位 宮崎わか菜(美濃加茂)

- 酒井 美妃(県岐阜商)
- 長屋 成美(関商工)
- 加藤 咲笑(県岐阜商)



女子上位入賞 4選手

◎第六十九回東海高等学校

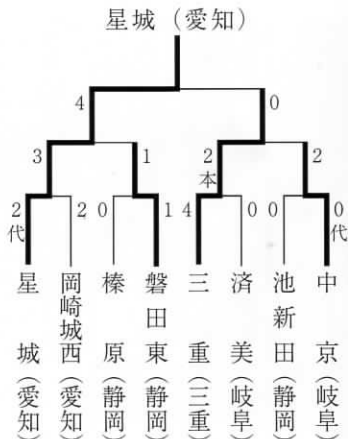
総合体育大会

六月十八・十九日  
北スポーツセンター(愛知県)

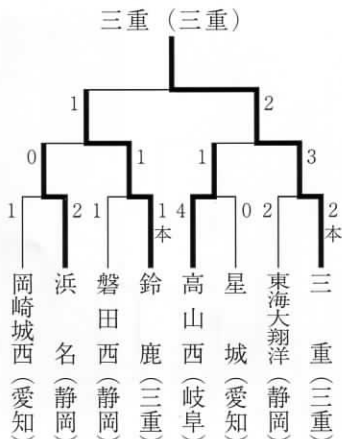
団体戦は、男子団体において、中京が三位入賞、済美が五位入賞、女子団体において、高山西が三位に入賞した。

個人戦は、男子個人において中京の内匠が五位入賞、女子個人において高山西の樋口が五位入賞という結果であった。今大会は、団体戦・個人戦ともに他県選手団のパワーに押された様子であった。

【男子団体】決勝トーナメント



【女子団体】決勝トーナメント



【男子個人】五位 内匠 悠仁(中京)

【女子個人】五位 樋口 恵淑(高山西)

◎第六十九回全国高等学校

総合体育大会

八月五日～八日

高知県立春野総合運動公園体育館(高知県) 団体戦では男女とも予選リーグ敗退という結果で終わってしまったが、個人戦では高山西の樋口が、昨年に引き続き二

年連続で五位に入賞し、好成績を収めた。

【男子団体】

中京 予選リーグ敗退

○予選リーグ

第一試合 中京 0-1 金沢桜丘(金沢)  
第二試合 中京 1-0 興南(沖繩)

【女子団体】

高山西 予選リーグ敗退

○予選リーグ

第一試合 高山西 0-1 明豊(大分)  
第二試合 高山西 3-1 米子松蔭(鳥取)

【男子個人】

○徳佐屋 樹(中京・三年)

一回戦 徳佐屋ドー鈴木(沼田・群馬)

二回戦 徳佐屋コー安原(丸岡・福井)

三回戦 徳佐屋コー山根(大社・島根)

○黒井 洸希(済美・二年)

一回戦 黒井コー藤崎(明豊・大分)

【女子個人】

○高瀬 円香(済美・三年)

一回戦 高瀬コー宮園(鹿児島実業・鹿児島)

一回戦 恵淑(高山西・三年) 五位入賞

一回戦 樋口コー福西(桐蔭学園・神奈川)

二回戦 樋口コー二宮(市立沼田・広島)

三回戦 樋口コーメ木村(淑徳巣鴨・東京)

四回戦 樋口コー大塩(東海大札幌・北海道)

準々決勝 樋口コーメ碓(三養基・佐賀)

◎第四十九回岐阜卓高等学校

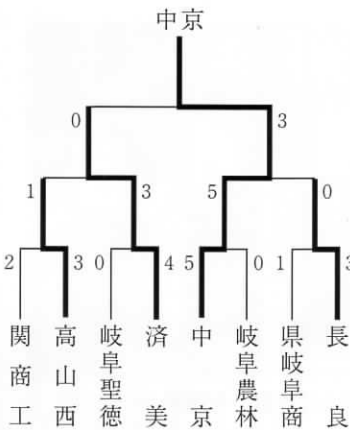
剣道大会

八月十二日

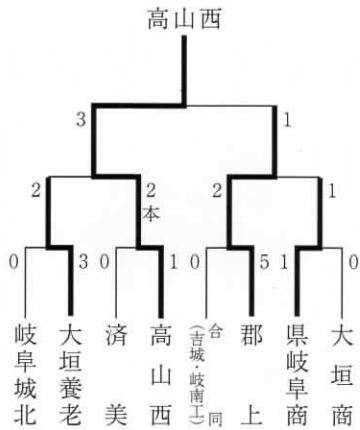
アテナ工業アリーナ

新メンバーでの構成で臨むチーム、三年生が現役高校生選手として最後の出場をするチームが混在する大会である。結果は五月に開催されたインターハイ予選と同じく、男子においては中京、女子においては高山西が優勝の栄冠を手に入れた。新チームでありながら十分な実力を備えたチームも多くあり、今後の成長に期待が高まる試合となった。

【男子団体】(三十九校出場)



【女子団体】(二十九校出場)



女子優勝 高山西



男子優勝 中京

◎第六十八回岐阜卓高等学校 剣道新人大会

十一月十二日(男女個人)

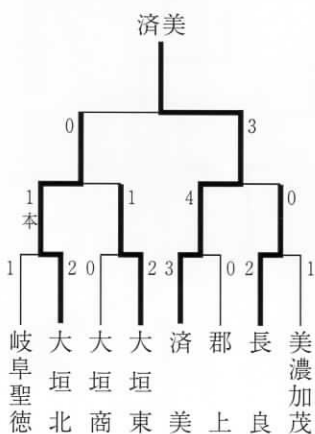
池田町総合体育館

十一月十三日(男女団体)

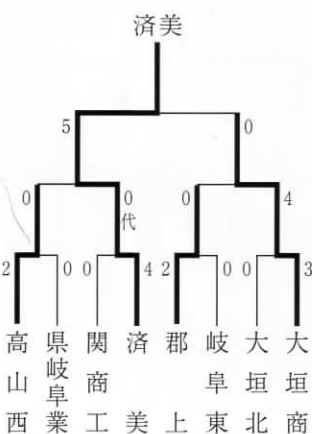
池田町総合体育館

今年度より、個人戦は全員参加となり、より白熱した試合が展開された。混戦を極める中、男子個人においては済美の古山、女子個人においては高山西の塩田が優勝の栄冠を手に入れた。団体戦においては済美が初のアベック優勝を果たした。

【男子団体】(三十五校出場)



【女子団体】(二十八校出場)





【男子個人】(二百二十七名出場)

- 優勝 古山 想羅 (済美)  
 準優勝 吉田 和史 (高山西)  
 三位 大瀬 瑛亜 (高山西)  
 鳥澤 亮 (済美)



女子優勝 済美



男子優勝 済美

【女子個人】(百二十七名出場)

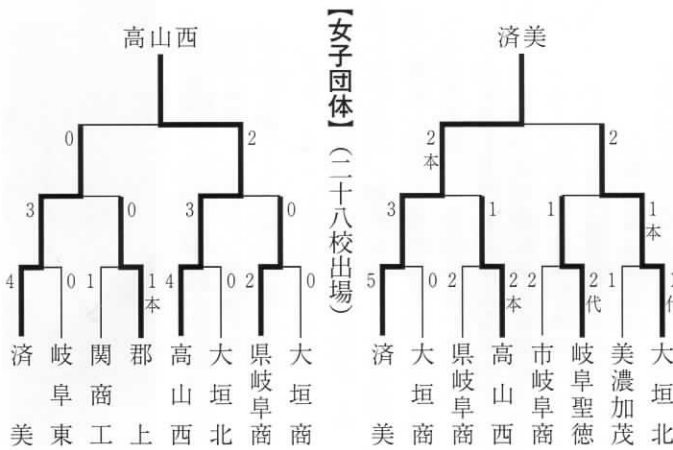
- 優勝 塩田 円佳 (高山西)  
 準優勝 若尾 樺子 (高山西)  
 三位 富田 愛夏 (県岐阜商)  
 岩田 萌愛 (済美)



女子上位入賞 4選手



男子上位入賞 4選手



【男子団体】(三十五校出場)

一月二十一日  
 アテナ工業アリーナ  
 男子団体戦は、十一月に開催された新人戦に引き続き済美が優勝を飾った。女子団体戦は、新人戦で辛酸を舐めた高山西が決勝で済美を破り優勝を飾った。優勝校は三月に開催される全国選抜大会へ、五位入賞校は二月に開催される東海選抜大会に出場する。

◎第三十二回全国高等学校  
 剣道選抜大会  
 兼第九回東海高等学校  
 剣道選抜大会岐阜県予選会



女子優勝 高山西



男子優勝 済美

## ◎第三十二回全国高等学校選抜剣道大会

三月二十六日～二十八日

春日井市総合体育館

今年度は、男子は済美、女子は高山西が出場した。

男子の済美は二回戦敗退という結果で終わった。女子の高山西は東海勢最高位となるベスト八に入賞し、全国の舞台においても好成績を収めた。また、高山西の小山が女子優秀選手として選考された。

### 【男子団体】

- 済美 一回戦 二回戦 済美 二一〇 鎌倉学園(神奈川)
- 二回戦 済美 一一三 三重(三重)

### 【女子団体】

- 高山西 ベスト八 一回戦 高山西 二一〇 矢坂中央(栃木)
  - 二回戦 高山西 三一〇 金沢(石川)
  - 三回戦 高山西 三一〇 今治精華(愛媛)
  - 準々決勝 高山西 一一二 佐伯鶴城(大分)
- 女子優秀選手賞 小山 詩乃

# 警察 剣道

監督 白川 順一

令和4年度の警察剣道は、全国警察剣道大会(団体戦)は3年ぶり、中部管内警察剣道大会及び全国警察剣道選手権大会(個人戦)は2年ぶりの開催となりました。コロナ感染予防対策のため、例年とは違った形式での開催となりました。令和4年7月27日、中部管内警察剣道大会が中部管区警察学校において無観客で開催されました。例年6県(岐阜、愛知、三重、福井、富山、石川)の総当たりリーグ戦で行われていましたが、今回は、3県のリーグ戦を行い、各リーグ1位により、決勝戦を行いました。結果は、以下の通りです。

- 岐阜県警 2-1-3 三重県警
- 岐阜県警 5-1-1 福井県警

岐阜県警は、1勝1敗でリーグ2位となり、決勝戦に勝ち進むことは出来ませんでした。

令和4年10月11日、全国警察剣道大会が警視庁術科センターにおいて無観客で開催されました。各部五人制・大会成績による各部の入れ替えはなしで行われ、岐阜県警は第2部で出場しました。結果は以下の通りです。

- 岐阜県警 1-1-2 茨城県警
- 岐阜県警 1-1-2 和歌山県警

岐阜県警は、リーグ二敗で敗退となりました。茨城、和歌山戦とも大将戦となり、厳しい勝負に勝ちきることができませんでした。

令和4年12月7日、全国警察剣道選手権大会が警察大学校において無観客で開催されました。トーナメント戦の一本勝負で行われました。結果は以下の通りです。

- 伊藤崇司 1回戦 伊藤崇司 メー 杉田(岡山県警)
- 2回戦 伊藤崇司 一メ 宮本(神奈川県警)
- 大野祐史 1回戦 大野祐史 一ド 菅野(兵庫県警)
- 伊藤雄平 1回戦 伊藤雄平 一ド 黒木(大分県警)

各選手とも、奮闘してくれましたが、目標とする上位入賞には届きませんでした。来年度は、各大会とも通常の形式での大会に戻る予定です。一人一人が個々の剣道を磨き、厳しい勝負に勝てるよう訓練に励んでいきたいと思えます。

# 学校 剣道 連盟の活動

## ◎第六十四回全国教職員剣道大会県予選結果

五月二十二日(日)

大垣養老高校 体育館

### 団体

- 監督 松尾 祐治 大垣養老高校
- 先鋒 栗山 大輝 池田中学校
- 次鋒 中西 港 富田高校
- 中堅 長屋 貴則 岩野田中学校
- 副将 松井 直也 大垣東高校
- 大将 杉田 龍彦 富田高校

### 個人

- 男子の部 出崎 翔大 各務原西高校
- 女子の部 早矢仕真帆 輪之内中学校

## ◎第六十四回全国教職員剣道大会結果

令和四年八月十一日(木・祝)

於 長野県長野市ホワイトリング

### 団体戦

- 一回戦 岐阜 1-1-1 (代) 島根

### 個人戦

- 男子の部(出崎 翔大) 一回戦 出崎 一メメ 林田(福井)



# 居合道の活動

〔小学生県代表者賞〕

後藤 桜（梧道館後藤道場）

〔私と剣道〕

二位 山田 彩都（羽島市剣道教室）

三位 大井 望生（雙柳館岩崎）

〔中学生県代表者賞〕

江幡佳那子（梧道館後藤道場）

〔あこがれを後輩達に〕

二位 長屋 健人（雙柳館前一色）

三位 廣田 佳子（賜生道場）

## ◎各地区大会の実施

・飛騨地区大会 十二月十一日 高山市

・加茂地区大会 三月十二日 八百津

・岐阜地区大会 三月十二日 羽島市

・中濃地区大会 三月十二日 美濃市

※【本年度登録数】

・加盟団体数：四十六団体

・会員登録選手数：七百八十二名

（文責）岐阜県剣道道場連盟

事務局長 早矢仕 克己



## ◎第五十回岐阜県居合道大会

香村 茂

新型コロナウイルス感染症の為に延期されていた岐阜県居合道大会が令和四年六月五日、岐阜市岐陽体育館に於いて、三年ぶりに開催された。コロナの影響もあり参加者は例年よりも少なく役員選手で七十余名の参加でした。

コロナ感染防止対策を講じて、大会の規模を縮小し午前中に終了目途で開催した。開会式のと、七段の演武、その後二試合場で六段の部から初段以下の部まで試合を行った。コロナ禍で稽古不足の選手も見られたが、見応えのある立派な演武も見られ、コロナを吹き飛ばす熱気ある試合もあって大会は盛り上がった。成績は、次のとおり。

### 地区別団体成績

優勝 岐阜地区

準優勝 飛騨地区

三位 西濃地区

### 初段以下の部

優勝 柳田 千穂

準優勝 浅野 勉

三位 朝日 久男

### 二段の部

優勝 平田 桜

準優勝 菅原 敬二

三位 後藤 淳

### 三段の部

優勝 丹羽あおい

準優勝 荒木 泰久

三位 小川 誠

### 四段の部

優勝 平賀 友大

準優勝 三島 健

三位 澤田 健

### 五段の部

優勝 村橋 祐輝

準優勝 安藤 健介

三位 水野 友紀

### 六段の部

優勝 日比野卓哉

準優勝 渡辺 直

三位 栗本 英

### 七段の部

優勝 志津野 泰幸

準優勝 矢澤 夏女

三位 伊藤 彰

## ◎岐阜県居合道伝達講習会

参川 憲昭

令和4年9月25日 岐阜県総合体育館において65名の参加を得て伝達講習を実施した。午前中は全日本剣道連盟居合の礼法からはじまり、一本目から十二本目までを居合道解説書、及び指導要点に基づき、矢澤七段の演武で参川の解説で実

施した。

解説のあと段別に分かれて全剣連居合の実技指導をした。

特に一本目の重要性を説いた。全ての基本であることを考えて十分に稽古をしてほしい。

午後からは審判実技講習をする。六段、七段を対象として、旗の表示要領、交代の仕方などのほかにコロナ禍における、新しい旗の置き方、交代の仕方などを細かく、繰り返し講習をした。

## ◎第五十七回全日本居合道大会

監督 参川 憲昭

令和4年10月8日土曜日に東京都足立区綾瀬の東京武道館において開催されました。

入館受付についてコロナ禍という厳しい状況の中で細かい決めごとがあり、「健康記録表兼確認票」の提出など刀剣検査等、各試合場には選手と監督のみとなり、いろいろと初めての事が多い中で大会運営となりました。

岐阜県選手団は 監督 参川 憲昭。五段は村橋 祐輝、六段は日比野 卓哉、七段は志津野 泰幸、補助監督は香山 茂で構成。

コロナ禍ではありましたが強化稽古には厳しく激しい練習に選手が耐えてくれました。

指定技は四回戦まで「柄当て」「諸手突き」「四方切り」、準決勝戦および決勝戦は「受け流し」「添え手突き」「総切り」であります。



試合は七段の部は志津野選手で1回戦は山口の福田選手で2対1で勝利、この1回戦に勝ったことが大きかったと思います。

続いて2回戦は秋田の戸田選手に3対0、3回戦は埼玉の永井選手 3対0、4回戦は京都のブライヤーボウ選手 2対1、準決勝戦は神奈川の原田選手に0対3で負けましたが、ベスト4に入っ

て、がんばりました。審判長の井出先生の総評の中に志津野選手に対して正統な居合で楽しみな存在と評されました。

六段は1回戦で敗退、五段は1回戦シード、2回戦は3対0、3回戦は1対2で敗退しました。総合で12位で終わりました。

全日本大会を終えて今後の課題として、正統な居合を目指して、技の正確、仮想敵、緩急、強弱など気迫のこもった居合を目指し、居合道部全員で取り組み、来年度以降の全国大会には今回より上位を目指してより良い成績が残せるように努力したいと思っています。

### ◎第53回東海四県対抗居合道大会

監督 矢澤夏女

令和5年3月5日(日)静岡県藤枝市の静岡県武道館にて開催された。コロナ禍のため中止が続き、実に4年ぶりの大会となった。

本県は昨年12月から14名の選手候補を選出し、下半身強化とケガのない体づくりを取り入れた強化稽古をおこなった。

1月には9名の選手を決定し、コロナ禍のために替えの選手の必要性も考え、引き続き14名で稽古を続けた。

指定技は、「前」「柄当て」「諸手突き」「添え手突き」「四方切り」の五本であった。試合が始まる前に円陣を組んで氣勢を上げたが、第一試合の愛知には1対8の大敗。初出場の先鋒平田、次鋒尾崎、7将伊藤、5将小川の各選手の緊張が後ろ姿からもうかがえた。6将平賀の旗3本の勝ちから流れが変わることを期待したが、流れは変わらなかった。

二試合目の静岡戦では硬さも取れ一進一退の攻防となったが、期待された後半の高校者がごとくと負け、3対6で敗退となった。三試合目の三重戦では前半戦で勝ちを重ねたものの後半で負けが込んだが、リードを守り辛くも5対4で勝利して、四県中三位の成績で幕を閉じた。

降っていた雨も大会の閉幕と共に上がり、夕日に向かって帰るそれぞれの胸中には苦い思いの方が多かったであろうと推察された。「来年も選手になってリベンジしたい！」と強く思う選手が何名もいることを来年につなげたい。全勝賞の平賀選手をはじめ、稽古に励んだすべての選手の健闘に敬意を表したい。ご指導いただいた先生方、審判、役員の先生方、遠路応援に駆けつけてくださった皆様に感謝申し上げます。



選手  
先鋒 平田 桜  
次鋒 尾崎 嘉秀  
7将 伊藤 弘成  
6将 平賀 友大  
二段  
三段  
四段  
四段  
5将 小川 誠  
4将 村橋 祐輝  
3将 澤田 健  
副将 栗本 英  
大将 五十嵐啓司 錬士  
六段 錬士  
五段 錬士  
四段 錬士

	先鋒	次鋒	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝者数	勝本数
愛知県	上田	篠原	福田	市川	高橋	西川	加藤	浅野	近藤	8	22
	3	3	2	0	3	3	2	3	3		
岐阜県	0	0	1	3	0	0	1	0	0	1	5
	平田	尾崎	伊藤	平賀	小川	村橋	澤田	栗本	五十嵐		

	先鋒	次鋒	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝者数	勝本数
岐阜県	平田	尾崎	伊藤	平賀	小川	村橋	澤田	栗本	五十嵐	3	9
	0	2	1	2	2	1	0	0	1		
静岡県	3	1	2	1	1	2	3	3	2	6	18
	宗村恵	増田	余吾	伊奈	清水	宗村一	新島	山本	大田		

	先鋒	次鋒	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝者数	勝本数
岐阜県	平田	尾崎	伊藤	平賀	小川	村橋	澤田	栗本	五十嵐	5	14
	3	2	0	3	2	3	0	0	1		
三重県	0	1	3	0	1	0	3	3	2	4	13
	伊藤	山下	宮田	前川	片山	藤田	辻	森下	川口		

# 事務局だより

## 令和四年度全剣表彰

剣道の振興に寄与したとして、次の方・団体が全剣連より表彰されました。

### 剣道有功賞

○杉原 明男 先生

剣道教士 七段

平成十二年四月から岐阜県剣道連盟評議員、平成十六年四月から理事、平成二十二年からは常任理事を務められました。

現在も岐阜県剣道連盟相談役の役割に

県名	愛知	岐阜	三重	静岡	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛知県		22 8	23 8	18 7	3	23	63	1
岐阜県	5 1		14 5	9 3	1	9	28	3
三重県	4 1	13 4		9 2	0	7	26	4
静岡県	9 2	18 6	18 7		2	15	45	2

就くなど、長年にわたり岐阜県の剣道界発展のため寄与された。  
また、地元少年団・中学生の剣道の普及発展にも貢献されるなどその功績は大である。

### 少年剣道教育奨励賞

#### ○岐阜南警察署剣道少年団

ア 活動期間 平成四年四月～現在  
イ 会員数 指導者一人・少年十九人・高校生九人

ウ 仲間と切磋琢磨する環境作りに努めるとともに、礼法や所作、基本動作を大切にして、子供たちの可能性を引き出すことに重点を置いて練習に取り組んでいる。  
エ 活動日数 週二回（火・土）

#### ○大垣市中央剣道スポーツ少年団

ア 活動期間 昭和五十二年四月～現在  
イ 会員数 指導者四人・少年十一人  
ウ 正しい剣道を通して、健全な心身を鍛え精神的肉体的にも活力のある人間を育成して、人生の基盤づくりの一助になるよう指導している。  
エ 活動日数 週二回（木・土）

#### ○土田鳩吹剣道スポーツ少年団

ア 活動期間 昭和四十五年四月～現在  
イ 会員数 指導者二人・少年十五人  
ウ 初級者の部では、礼法の指導と体力づくりを中心に、上級者の部では、木刀による剣道基本技稽古法を中心に指導している。  
エ 活動日数 週二回（水・木）

### ○剣林館道場

ア 活動期間 昭和六十年四月～現在  
イ 会員数 指導者五人・少年十八人・高校生一般四人  
ウ 心と体を鍛え、道徳心を養い、礼節・所作を重んじ、集中力を高めるとともに、気剣体一致の打突を重点に指導している。  
エ 活動日数 週三回（月・水・金）

### ○荘川少年剣道クラブ

ア 活動期間 昭和五十五年七月～現在  
イ 会員数 指導者五人・少年十四人  
ウ 剣道の理念に基づき、礼儀作法や正しい基本動作ができるよう指導するとともに、剣道を通じて、青少年の健全育成を目指している。  
エ 活動日数 週二回（火・木）

### ○山中剣道教室

ア 活動期間 昭和五十八年五月～現在  
イ 会員数 指導者四人・少年十一人・高校生一般十人  
ウ 基本に忠実な剣道を目指すこと、試合に勝つことよりも正しい剣道を身に付けること、さらに、個性を大切にすることを重点に指導している。  
エ 活動日数 週二回（月・木）

## 編集後記

剣道を多くの皆様に知ってもらいたい。生涯続けられる剣道を目指し頑張っていたいただきたい。そんな思いで「広報」に取り組んでいます。  
寄稿された皆様には、御協力いただきありがとうございます。

（神谷）

今年度より広報委員として担当することになり、伝えたい思いを文章にし伝えることの難しさを痛感しました。微力ではありますが剣道の普及発展に努めていきたいと思えます。

（竹中）

今年度から大会、講習会等の行事や活動が以前と同じように行われるようになりました。皆様の活躍を正しくお伝え出来るように努めたいと思えます。

（菊池）

今年度から広報委員となり初仕事に膨大な原稿と向き合うことになりました。皆様に岐阜県剣道連盟のの様子をお伝えできたいと思います。尽くしていきたいと思えます。

（矢澤）



岐劍連 広報 第五十三号

令和五年六月一日発行

岐阜県剣道連盟

〒五〇〇一八三八四

岐阜市藪田南一―十一―十二

岐阜県水産会館内

発行者 理事長 下 烏 貴代一

広報委員 神 谷 正 敏

竹 中 和 春

菊 池 保 文

矢 澤 夏 女